

大豆のチョウ目幼虫の発生が広範囲で見られます。 圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を徹底してください。

[現在の発生状況]

- ① 7月下旬現在、大豆圃場におけるチョウ目幼虫の寄生数は平年並～やや多く(本年値 1.1 頭, 平年値 0.6 頭(25 株調査)), 発生地点率は平年より高い(本年値 80%, 平年値 28%)。
- ② 大豆の葉を食害するチョウ目幼虫の主要種は、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ツメクサガ、ミツモンキンウワバ、サヤムシガ類等である。また、オオタバコガ、ツメクサガ等は子実も食害するため、密度が低くても被害が大きくなることがあるので注意する。
- ③ 気象予報(7月26日発表)によると、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。



写真 大豆を食害するオオタバコガ幼虫
(播種後13日目の圃場にて)

[防除対策]

- ① 表を参考に薬剤防除を実施する。老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ② ハスモンヨトウは、例年8月下旬頃から発生が見られる。白変葉(若齢幼虫の集団加害によって白く透けた葉)の発生を防除の目安とする。
- ③ 薬剤散布の際は、葉裏や株元にも薬剤がかかるように丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の同じ薬剤は連用しない。

表 大豆のハスモンヨトウに登録のある主な薬剤(平成25年7月24日現在)

系統名	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 - 本剤の使用回数	有効成分	無人ヘリでの 登録の有無 ¹⁾
ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	7-3	フルベンジ [®] アミド [®]	無 ²⁾
	プレバソンフロアブル5	4,000倍	7-2	クロラントラニリブ [®] ロール	有
マクロライド系	アニキ乳剤	2,000~ 3,000倍	前日-3	レピ [®] メクチン	無
I G R	アタブロン乳剤	2,000~ 4,000倍	14-2	クロルフルアズ [®] ロン	有
	ノーモルト乳剤	2,000倍	14-2	テルベンス [®] ロン	有
その他	トルネードフロアブル	2,000倍	7-2	インドキサルブ [®] 及び インドキサルブ [®] MP	有
	プレオフロアブル	1,000~ 2,000倍	7-2	ピリタ [®] リル	有

1) 無人ヘリ散布を行う場合は、希釈倍数等が異なるので十分注意する。

2) フェニックス顆粒水和剤と同一の有効成分であるベガスフロアブルは無人ヘリで登録有り。

※ 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用方法・注意事項等を必ず確認のうえ、周辺作物への飛散に留意する。